

令和6・7年度

# 光陽

研究の記録



大阪府立光陽支援学校

# もくじ

1	本校の研究	.....	1
2	全校研修会	.....	2、3
3	各学部取り組み		
	・ 肢体不自由部門 小学部	.....	4
	・ 肢体不自由部門 中学部	.....	5
	・ 肢体不自由部門 高等部	.....	6
	・ 病弱教育部門	.....	7

## 本校の研究

### 全校研究テーマとサブテーマの設定について

『生きる力を育てる授業づくり～教材・教具の工夫～』

2020年度施行の学習指導要領では、知・徳・体のバランスのとれた力＝「生きる力」を子どもたちに育むことをめざしている。本校は病弱教育部門と肢体不自由部門を擁し幅広い実態の児童生徒が在籍する中、一人ひとりの生涯・将来を見据えた「生きる力」を育む授業づくりをめざし、令和5年度より本テーマにて教育研究を進めてきた。

サブテーマの設定理由としては、学校経営計画の目標「質の高い授業実践の実現(授業実践の向上)」にもあるように、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業実践のために欠かせない教材教具について意識を向け、研究を進めていくために設定することにした。

令和6年度には、この「生きる力」の内容を「光陽キャリアプランニング・マトリックス」と結び付けることにより、教育実践において取り入れたい考え方や活動を具体的に提示することを目指した。

令和7年度は本研究テーマ実施3年目の節目にあたり、教員対象アンケート結果の分析やさらなる実践の推進を通して、取り組みの総括を行うことを計画した。

# 全校研修会

## 令和6年度

### 1 テーマ

「生きる力を育てる授業づくり」

### 2 講師

(研) 後藤翔太 (小) 高橋侑一 (中) 中島優 (高) 周藤真世 (病) 土江彩加

### 3 日時

令和6年12月3日(火) 16:00～17:00

### 4 内容

- (1) 研究テーマの確認、本校における「生きる力」とは(研究部より)
- (2) 指導実践の紹介 小学部
- (3) 指導実践の紹介 中学部
- (4) 指導実践の紹介 高等部
- (5) 指導実践の紹介 病弱部

### 5 講演要旨

本研究テーマについては継続して取り組んでおり、令和6年度はその2年目にあたるため、積極的な授業実践や情報交換を通して、本校教員がより考えを深め合い、授業実践スキルを向上できることをめざして本研修会を企画した。早期に研修会の概要や目的を発信し、各学部にて実践発表者を募集した。発表者決定後は研究部より共通の様式や編纂方法を提示するよう心掛けたことで、問題なく研修会に向けた発表準備を進めることができた。

研修当日は、各学部の発表者より授業や日常生活の中で行われた特色ある活動内容が発表され、その中で児童生徒が自己選択・自己実現に向けて取り組んだ様子も紹介された。光陽キャリアプランニング・マトリックスに基づきながらも、その内容を消化して各々の観点より実践報告が行われ、参加者にとってはキャリア教育の視点を広げる機会になったと思われる。

### 6 まとめ

研修内容および事後アンケートの各項目については、肯定的回答率80%以上を得ることができた。特に「他学部の様子を知ることができたか」の項目の肯定的回答率は高く、小中高一貫校である本校における将来を見据えた系統的な教育について、本研修がその一端を担うことができたのではないかと考える。

一方で、アンケートにおいて日程や開催形式についてのご提言をいただいております。今後もアンケートの指摘を反映して無理なく参加でき意義のある研修会の計画を行う必要がある。

また、次年度(研究テーマまとめの年度)に向け、児童生徒の力を伸ばすキャリア教育のさらなる実践例や疑問を本校教員に募る必要がある。

## 令和7年度

### 1 テーマ

「生きる力を育てる授業づくり」

### 2 発表者

本校教諭 研究部 後藤 翔太

### 3 日時

令和7年 8月28日(木) 15:30~16:30

### 4 内容

研究テーマの確認、研究テーマ関連事業の振り返り
「生きる力」の具体化 ~ 光陽キャリアプランニングマトリックスとの関連
R6教員対象アンケート結果より ・結果報告 ・ご質問を受けて
生きる力を伸ばすキャリア教育 ・事例提示 ・ワーク「実は伸ばせる!キャリアのチカラ」

### 5 講演要旨

研究テーマに基づく取り組み3年目の節目にあたる今年度は、教員対象アンケート結果の分析やさらなる実践の推進を通して、取り組みの総括を行うことを目的とした。

研修では、キャリア発達の4つの基礎的・汎用的能力（キャリアプランニング能力、課題対応能力、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力）それぞれのポイントを解説し、これらの能力がバランスよく育つことで、あらゆることが起こりうる生涯を生き抜く力につながることを説明した。

さらに、前年度末に本校教員を対象に実施した、キャリア教育に関する聞き取りアンケートの結果を提示した。光陽キャリアプランニング・マトリックスの理解度や活用状況、教員が感じている課題等について共有し、寄せられた疑問点に応じる形で事例提示や所見を示した。

後半では、授業における各場面で育てうるキャリアの能力の事例を示した後、「実は伸ばせる!キャリアのチカラ」と題してグループワークを実施した。講演者より提示された題材（朝の会、エアートランポリン等）で、どんな基礎的・汎用的能力が育てられそうか考えてワークシートに記入し、グループ内で共有するというもので、会場では各教員が自身の考え方に基づいた発表を盛んに行い、本校教員が一定の段階までキャリア教育について理解し意見交換が行えていることが窺えた。

終盤には、授業の時間設定に余裕を持たせ、時に非効率な場面をあえて取り入れることが児童生徒のキャリアを大きく伸ばす可能性があることに触れ、研修会を終えた。

### 6 まとめ

伝わりやすい資料作成への注力と昨年度からの情報収集を行ったことで、参加者アンケートでは肯定的回答率90%以上を得た他、記述欄では指導に活用できる等の多くの感想を得ることができた。また、「いつもの関わりにキャリアの学びが内包されていると気づいた」「卒業を見据えた指導の丁寧さを意識したい」「先回りしすぎないなど課題対応能力の視点が新鮮」などキャリア教育の核心に触れた意見が多く得られた他、「2学期からの授業に取り入れたい」と前向きな回答が多数見られた。本研修会では、本校の教育の方向性一致・指導力向上において一定の役割を担うことができたと考えられる。

## 肢体不自由部門 小学部

### (1) 授業振り返り研修会

#### 授業振り返り研修会① 記録シート (一部)

#### ①目的

- ・授業の担当者だけでなく、サブティーチャーも含め授業に入っている教員全員で授業について話し合い、授業改善につなげる。
- ・サブティーチャーの関わり方について検討し、向上をめざす。

#### ②内容及び方法

- ・第1回は1学期に、第2回は2学期に実施する。
- ・各学習グループ(1・2年生は学年または学級)で振り返り対象授業を一つ選ぶ。
- ・「子どもの主体的な学び」を引き出せているか、キャリア教育の観点ではどうか等、振り返りを行い、気付いたこと、改善策のアイデア等を出し合う。研修会記録シートに記録し提出する。
- ・第2回では、第1回以降改善された点等について確認できるように、第1回と同じメンバーで行うことが望ましい。

★対象授業に入っている先生全員で、以下のことを中心に、授業の振り返りをおこなってください  
① 授業の中の「良かった」でよい「やってみよう」という場面について

② 光臨キャリアプランニングマトリックスにおけるどの項目に重点をおいているか(複数可) 基礎的・汎用的能力	観点・要素	(異資料参照)
--	-------	---------

③ 教材・教具の工夫について  
④ 子ども同士のかかわりについて  
⑤ サブティーチャーのかかわりについて  
⑥ 今後に向けての課題、改善点など

### (2) 教材・教具の紹介及び各グループの実態報告

#### ①目的

- ・各学習グループの授業の様子と児童の実態、使用している教材・教具についての情報共有をはかる。

#### ②内容及び方法

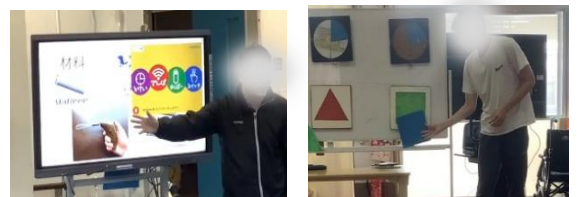
- ・各学習グループ(1・2年生は学年)で使用した教材・教具の紹介を行う。(対面研修)
- ・R6年度は、8つのグループがそれぞれ教材・教具の紹介を行う。2学期と3学期の2回に分けて実施する。実態報告については各グループ10分程度の動画を作成する。(オンデマンド研修)
- ・R7年度は、7つのグループが1月中の2回の研修会で教材・教具の紹介と実態報告をする。(対面研修)

### (3) まとめ

小学部では、7年前から「授業振り返り研修会」を毎年行っている。これは教員全員が当事者として授業改善に取り組むこと、そして児童の様子をもとに授業内容を振り返ることで、子どもの実態に合った授業作りに取り組む、というPDCAサイクルを構築することをねらいとしている。また、学部全体よりもグループという小規模集団の方が、より多くの意見が出ると考える。提出された記録シートから、各グループで活発な意見交換ができていたことが窺える。サブティーチャーも主担者に遠慮なく授業計画についての意見が言えたり、普段から授業についての気付きを語り合えたりする雰囲気につながっていると考えている。以前、小学部の授業見学をした他学部の教員から「小学部はサブティーチャーが主担者と同じ目線で授業に入っていると感じた」という感想をいただいたこともあり、この授業振り返り研修も授業改善に一定の効果を挙げていると思われる。

教材・教具の情報共有では、手作りした教材の材料や使用したICT機器、使用したときの児童の様子など、各グループから特色ある教材・教具が紹介され、各教員が興味深く聞いていた。研修会后、紹介されたアプリについて質問する場面や、以後の授業で活用しているという報告もあった。とても有意義な研修であったとの感想も寄せられており、今後も継続的に実施する必要がある。

R6年度 教材・教具の情報共有 R7年度 教材・教具の情報共有



## 肢体不自由部門 中学部

### (1) R6年度授業振り返り研修①・②

①目的 ・キャリア教育の視点から授業の方向性を提示し、授業を通して生徒に身につけさせたい力について、考えを深める。

・研究テーマ「生きる力を育てる授業づくり～教材・教具の工夫～」を通してキャリア教育についての理解をより深める。

#### ②内容

授業振り返り研修は、5月と1月の計2回行った。

1回目の研修では、首席より「光陽キャリアプランニング・マトリックス」の紹介が行われ、これを基に「生きる力」を伸ばすための取り組みについて講義を行い、ワークを通して授業の各場面において育てたい力について考えた。

2回目の研修では、「キャリア教育の基礎的・汎用的能力」を基に3つのグループに分かれて授業の振り返りを行った。キャリア教育とは、必ずしも授業に新しい要素を取り入れることではなく、指導者がキャリア教育の視点をもって日々の授業にあたり、生徒が行動したり選択したりする場面を取り入れたりすることが生徒の成長につながり、生徒の将来・生涯に必要な力を大きく伸ばすかも知れないという考えを共有して終えることができた。

	やってみたい意欲・興味、制作方法や完成品への見直し 目標の提示、手本や模倣・作品例の提示 材料や役割を揃え、わからないことについて尋ねる 美術の機会の設定、習得の機会の設定 友達と力を合わせる、毎手を褒め入れる チーム分けの設定、自分たちで役割を分担 チームメイトの意見を尊重・実証する場面 ルールを守る、観察する 自分のアイデア・今日の決まりごとの提示 少し難しい役割に就く生徒を褒める	キャリアプラン 課題設定 人間関係 社会生活 自己理解 自己肯定
--	---	---

授業内容	導入	展開	まとめ
キャリアプラン			
課題設定			
人間関係			
社会生活			
自己理解			
自己肯定			

### (2) R7年度指導力向上研修

①目的 ・肢体不自由教育において従来重視されてきた「身体的な動き」だけでなく、あえて「見る」行為そのものに着目し、その重要性を理解する。

・生徒が「見る」行為と動作をどう紐づけているかを知り、新たな視点での実態把握や授業づくり(目標設定・環境調整)につなげる。

#### ②内容

研修の前半では、視機能の視点から「入力(取込み)→視覚情報処理→出力」という行動のプロセスについて講義を行った。中心視と周辺視の機能的・役割の違いや、「見る」行為とこれまでの「経験」が出力動作や反応などにどのように関わっているかなどについて理解を深めた。

また、講義の中では鏡を見ながら星形の図形をなぞる実技を行った。私たちの脳は、過去の経験を用いて身体を動かすが、この実技では目で見ている情報と手の動きが一致しない時、脳がいかに混乱し、負担がかかるかを体験した。頭ではわかっているのに手が思うように動かないもどかしさを通じて生徒が感じている、目と手をつなぐ機能の難しさを知識としてだけでなく、感覚として理解する機会となった。



## 肢体不自由部門 高等部

### 1 令和6年度 学部研修会「タブレットの活用的な使い方について」

本校では、生徒一人ひとりの自立と学習を支える手立てとして、ICT機器の活用を進めている。そのため、今年度の学部研修会では学部のICT教育部の教員を講師とし、タブレットの基本的な操作方法やアクセシビリティ機能について学ぶ機会を設けた。研修会では基本的な操作方法に加え、授業や日常生活の場で有効に活用できるアクセシビリティ機能（読み上げ機能やアクセスガイドや文字などのズーム領域など）について紹介された。教員が説明を聞きながら実際にタブレットを操作することで、生徒たちの学習に役立つ可能性を実感し、更に生徒の実態に合わせた機能の活用方法を学ぶことができた。

今後は、今回学んだ内容を授業や日常生活に取り入れ、生徒が主体的にタブレットを使用することができるように支援していくことが課題である。また、教員間でも効果があった実践方法などを共有することで、更に活用の幅を広げていきたいと考えている。

### 2 令和7年度 学部研修会

#### 「Iコース（自立活動を主とした課程）・『かんかく』の授業について」

##### ①ねらい

「かんかく」の授業では、生徒の感覚の保持・活用を目的として、五感に働きかける教材を用いている。本実践では、感覚を中心とした体験を通じて、感触の違いへの気付きと興味・関心の向上をねらいとした。

##### ②教材・方法

「ダイラタンシー」を題材とし、風船の中に片栗粉と水を入れて混ぜ、力を加えると硬くなり、抜くと液体に戻る性質を体験できるようにした。触れたり握ったりする活動を通して、感触の変化を感じ取る授業を行った。

##### ③生徒の様子

ドロドロの状態になると、驚いた表情や繰り返し触れて確かめる様子が見られた。力の入れ方による変化を楽しみながら、触れ方を工夫するなど主体的に活動する姿が見られた。

##### ④考察

本教材は感触の変化が分かりやすく、触覚を使う機会を生み、感覚の保持・活用につながった。また、生徒が触れ方を工夫するなど主体的な活動を促す点でも有効であった。さらに、材料が片栗粉の水のみで安全かつ準備が容易であり、他の場面でも活用しやすい教材である。今後も感覚を活用した学習の充実を図りたい。



## 病弱教育部門

### 1 令和6年度 病弱部主催全校研修

#### (1) テーマ

「子どもの精神障がい～食べられない子ども 学校が不安な子ども～」

#### (2) 講師

大阪市立総合医療センター 児童青年精神科部長 宮脇大 様

#### (3) 講演要旨

児童青年期にみられる精神の症状と障害の種類やそれらの概要を説明していただき、その後摂食障害・不安障害についての内容をお話いただいた。各障害のリスクとなる事柄やその成り立ち等を説明いただいた。また体重回復に従い段階的に制限されていた活動を許可する治療のステップや、具体的な事例等をお話いただき、病院として学校に期待することなども伝えていただいた。子どもの精神障がいに関する医療的な知識や近年の治療方針等を学べる機会となるとともに、日々精神障がいの児童生徒に関わる上で理解すべき点や配慮すべき事柄、病院との連携の大切さを改めて知ることができる、意義のある機会となった。

### 2 令和7年度 病弱部主催全校研修

#### 2 令和7年度 病弱部主催全校研修

#### (1) テーマ

「小児がん治療と学習支援」

#### (2) 講師

大阪市立総合医療センター 小児血液・腫瘍内科 副部長 岡田 恵子 様

#### (3) 講演要旨

小児がんの種類やその治療について説明していただき、入院中の子どもたちの一日の流れや退院後の通院治療のパターン等について詳しくお話いただいた。また治療による副作用や生活の制限などに起因する子どもたちの辛さを具体的に示され、「小児がんの経験者は尊敬すべき人たち」だということを伝えていただいた。また、闘病中の子どもたちにも「学び」を続ける権利はあり、「配慮」は必要であるが、「特別扱い」をせずに切れ目のない学習支援を行うことの重要性を説いてくださった。最後には「教育現場に伝えたいこと」をまとめられ、教育と治療を両立させることを目指す必要があることをお伝えいただいた。

### 3 まとめ

本校の分教室がある病院の医師から講演いただくことで、病気に関する知識や医療関係者の観点等を知ることが出来るると同時に、日々の病棟との連携を深めることにも繋がられた。この学びを活かし、病院との連携をさらに深め、病弱教育の専門性の向上を目指していきたい。